

無門

無門福祉会広報

第116号

2014年7月
発行・社会福祉法人無門福祉会
発行責任者・三浦 孝司



特集 SPECIAL “いい住まい”について考える 座談会

CONTENTS

- | | |
|--|------------------------------------|
| ■ 特集 “いい住まい”について考える [座談会].....②③ | ■ むもん歳時記 紫陽花.....⑥ |
| ■ 活動レポート
・いきいき遊び(余暇)プロジェクト ・日本クリーナー.....④ | ■ スポットライト
・チャレンジ精神 ・今を大切に.....⑦ |
| ■ 支援日記 脱!落ち着いて過ごす.....⑤ | ■ 平成25年度決算報告.....⑧ |
| ■ 結 井郷サマーフェスタ出店.....⑥ | ■ 編集後記.....⑧ |

〒470-0376 豊田市高町東山 7-43 電話 (0565)45-7883 FAX (0565)45-7886 HP <http://mumon-fukushi.net/> Email info@mumon-fukushi.net

MUMON



特集

“いい住まい”について考える 座談会

重松朋博 (グループホーム 管理者)、杉本英孝 (グループホーム 主任生活支援員)、
今回のメンバー 磯部竜太 (事務局 新規グループホーム建設事務担当)、
 川井彩湖 (事務局 新規グループホーム事業申請担当)

はじめに

自立した生活を実現するために、暮らしのベースとなる“住まい”はとても重要であり、無門福祉会では、その“住まい”の整備としてグループホームの建設やその事業運営に力を入れている。

では、どういう“住まい”が良いのだろうか？今回の座談会ではグループホームにスポットをあて、“いい住まい”とはどういうものか考えてみた。

川井 むもんのグループホームに見学に来る方とか実際に中に入ると「すごくいいね。」と言ってくれますけど、建物や設備だけが“いい住まい”の条件ではないと思います。グループホームの場合、そこに住む人との人間関係や支援員さんのサポート。そういったことに不快感があっては毎日の生活が楽しくないですから、あまり他人を気にせず自分のペースで暮らせる住まいがいいと思いますね。

重松 グループホームの場合、一緒に生活する人との関係はとても重要。グループホームの見学に来る方を案内すると、ほとんどの方が「私が住みたい」というような感想をくださるけど、その後で「では、みなさん、他人同士でここに暮らすことになったらどうですか？」と質問すると、ほとんどの方が考えてしまうね。

人それぞれかもしれないけど、他人と共同生活することで多かれ少なかれストレスはあると思うから、そのあたりが配慮された住まいがいいね。

杉本 最近はルームシェアとかもあるから共同生活が悪いわけではないけど、どういう暮らし方がいいのかは人それぞれ



川井



重松

れだから、もっといろいろな形態の住まいがあるといいですね。その人らしい暮らし方を受け止められる住まいがいい住まいだと思います。

磯部 グループホーム事業は、どこも似たような形態で運営していて、なんとなく家族的というか、共同生活色が濃いと思います。みんなで掃除して、みんなでご飯食べて、支援員さんがなんとなく一家の主のようになってしまって…、もっとそこは崩していいと思いますよ。一步間違うと、グループホームにあわせた暮らしになって、本人の希望がどこかにいってしまいますからね。

重松 そういう意味では、住まい探しや、グループホームを建設する場合、ある程度そこに住む人がどういう暮らしをするのか考えていないと難しいと思うよ。今回建設するグループホームはひとり暮らしに近いスタイルになっていて、部屋に家族や友達を呼ぶことや部屋でゆっくりくつろげるように考えているから、そういった暮らしがしたい人にはいいと思うね。

杉本 その人がその住まいでどう過ごすのか、休みの日は友達を呼んで部屋で過ごしたり、自分の部屋で紅茶を入れてゆっくり過ごしたり、そんなことでもグループホームの場合難しいことがありますからね。



杉本

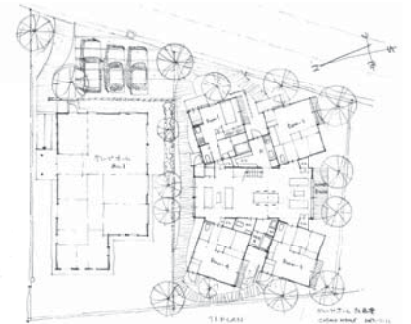
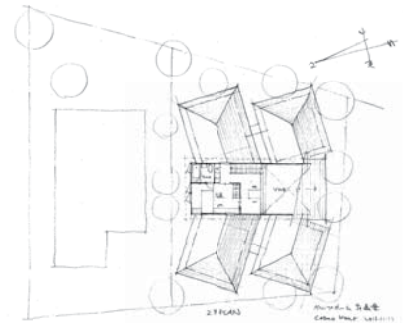
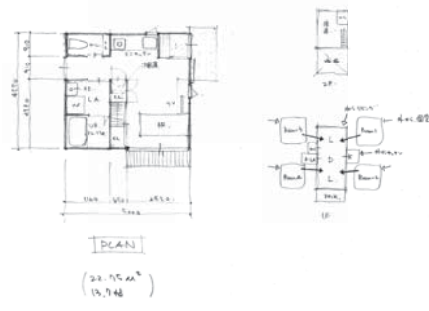


磯部

川井 私は、自分自身がひとり暮らしをはじめて楽しいと思っているんですけど、家族が嫌ということではなくて、自分の暮らしが送りやすいし、自分自身いろいろ考えるようになりました。自分でやらなければならないことが増えると生活にもハリがでると思いますよ。

磯部 結局、その人がその住まいでどう暮らしたいのかが大事ということですね。そしてそういった暮らしにあわせた間取りや設備、日当たりや風通しなんかも重要だと思います。やっぱり家に居て心地よく暮らしたいですよね。

重松 “いい住まい”は、その人らしい住まい方が可能な住まいだね。住みたい人と、住みたい場所で、安心して、くつろげて、リフレッシュ、趣味や自分の時間が楽しめる。そんな暮らしを可能にする住まいかな。



まとめ

“いい住まい”とは、その人の暮らしを受け止めることができる住まいのようだ。

グループホームの場合、その人の暮らし方、一緒に住む仲間との関わりやサポート体制、設備や使い勝手、日当たりなど様々な条件が必要になる。

ただ住めればいいということではなく、その人がどんな暮らしをしたいのか？そこをしっかりと考え、利用者さんが“いい住まい”と思えるような住まいでの暮らしをサポートしていきたいと思う。

活動レポート

いきいき遊び(余暇)プロジェクト

昨年度から活動している余暇プロジェクトは、今年度から『いきいき遊びプロジェクト』に名前を変えて活動しています。名前だけではなく内容もパワーアップしていますのでサークルと旅行について少しご紹介します。

個人の趣味を広げたり、深めたりする活動としてハイキングや陶芸等、全部で7種類のサークルを実施しています。昨年度までは7種類の中から1種類選択してもらい、月1回の活動を行っていましたが、プロジェクトメンバーの中で、「興味を持って楽しめる内容は人それぞれで、必ずしもひとつではないのではないか」という意見があり、今年度は複数のサークルを選んで参加していただけるようにしました。「運動もしたかったんだよね」と今までの芸術系のサークルに加えてフットサルサークルに参加する方や、中には3種類のサークルを楽しんでいる方もいらっしゃいます。

旅行についても昨年度は日帰り旅行が3種類、宿泊旅行が3種類でしたが、今年度はより選択の範囲を広げるために下呂温泉から沖縄まで様々な旅行を日帰り・宿泊ともに4種類企画しました。「今年はどんな行先があるのか」「ディズニーランドへ行きたいんだけど…」などのお話をたくさんいただきました。参加希望人数は昨年度を上回っており、旅行好きな方の多さを改めて実感しました。

他にも地域イベントへの参加やウォーキング大会などの企画がありますが、全体的に量を増やただけでなく、ひとつひとつの内容をよりいきいき楽しんでもらうために、どのような仕掛けが必要かを考えながら、プロジェクトを進めていきたいです。

プロジェクトリーダー 杉浦

日本クリーナー

今年度から、無門学園では株式会社日本クリーナーさんより、ゴミとして回収したペットボトルのラベル剥がしの作業を請け負っており、日本クリーナー藤岡事業所に出向いて作業をしています。

メンバーは8名です。みなさんやる気満々で取り組んでみえます。作業は工程が少なく単純で、成果が見えやすい特徴があります。これまで学園での作業には身が入らなかった方も、積極的に作業に取り組んでいます。また施設外に出向くということもみなさんのやる気につながっているようです。生活の場から出ることでメリハリがつき、仕事の意識を持ちやすくなっています。作業を始めたころよりも作業量が増え、自分たちで行える工程も少しずつ増えてきました。

もちろんまだまだ課題は山積です。利用者さんたちにとって初めての施設外作業であると同時に、私も作業担当としてマネジメントしていくのは初めてのこと。日々課題に頭を悩ませています…。今年度、この新しい作業を通して、利用者さんたちと一緒に、私も成長していけたらと思います。

無門学園 生活支援員 池田有紀子



**支援
日記**

脱! 落ち着いて過ごす

あおいそらカフェ
岡本 若奈

私がFさんと一緒に働くようになったのは2年ほど前です。

先輩からは、環境の変化が苦手で、新しいことに対しては拒否が多いと聞いていました。私自身も、そのような認識で、これまで、落ち着いて過ごしてもらうため極力変化がないように配慮した支援を行ってきました。

1年前の4月、Fさんと同じ作業に入っていた支援スタッフの異動がありました。その影響からか、声をかけても「あっち行って!」「仕事やらない。」というような発言が増え、Fさんは作業に入れないことが多くなりました。

そんな中、今度はテミルプロジェクトに参加することが決まりました。Fさんが慣れていたパンづくりから新しいお菓子づくりに仕事内容が変更することになりました。

この状況でさらに…、私は不安でいっぱいになりました。

そんな時、研修でテミルプロジェクトに参加している他の施設に行く機会がありました。その施設では、スタッフ全員が真剣にお菓子づくりに取り組んでいて、正直誰が支援スタッフなのかわからない程にみんながひとつになり、いきいきと働いていました。

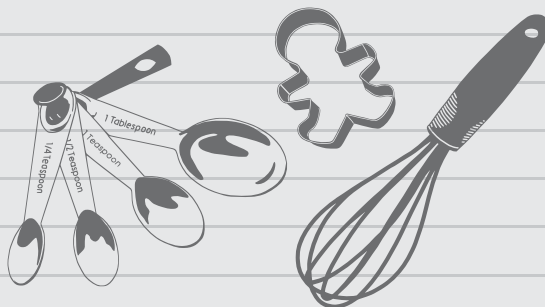
私は、その光景に衝撃を受け、あおいそらカフェをもっと働きがいのある職場にしていきたいと強く思うようになりました。

帰ってから、Fさんをはじめスタッフ全員がどうしたらいきいきと働けるのかを考えました。支援スタッフからいろいろと指示を受けなくても、スタッフが主体的に働けるよう、マニュアルや体制表を用意しました。また、苦手な作業がそれぞれあったのですが、スタッフはやりたいという気持ちだったので、個々に応じた器具の使い方を伝え、失敗をしながらも一緒に練習を積み重ねることで、苦手な作業にも取り組めるようになりました。

こうした日々変化する環境の中ではありましたが、Fさんは拒否することもなく意欲的にお菓子作りに打ち込むようになりました。それからはどんどん上達し、自らテキパキ働くようになりました。

先日、Fさんとの面談がありました。今のお仕事はどうですか?と尋ねると「楽しいよ」との返答。加えて、苦手な生地を伸ばす作業について聞くと「練習だよ」と笑顔で答えてくれました。焼きあがったショートブレッドを見て、Fさんと「どうですか?」「おいしそう!」「きれいに焼けたね」のやり取りが、菓子工房内にはあります。

Fさんの支援を通して、私自身今でも陥りがちな“落ち着いて過ごしてもらおう”という意識を捨てることが大事な一歩だと思いました。スタッフを「こういう人」と決めつけて見るのではなく、一人ひとりが当たり前に分らしく、そして普通に働ける職場づくりをしていきたいと思います。



結^{ゆい} 井郷サマーフェスタ出店

無門学園
荒木 巧也

無門福祉会では、毎年、夏と秋に、地域の交流館で行われるイベントに出店しています。

これは、地区の福祉委員のみなさんとの共同出店になります。そのため、支援員の行う声掛けだけではなく、自然な会話が飛び交う、当たり前の販売スペースが創り出されます。

出店者さんの声

福祉委員 船山さん

福祉委員の出店スペースだけど、販売するものがないから、毎年むもんさんには感謝しています。しいたけは定番だし、たい焼きも年々腕を上げてきていますね。今年は新たにショートブレッドも登場するなど、挑戦する姿勢には頭が下がります。

福祉委員 小山さん

新しく素敵な紅茶店もオープンしたんですね。紅茶専門店ということで、この辺りでは珍しいし、面白い取り組みだと思います。私は、近所の方にチラシを配って宣伝しています。これくらいしか出来ませんが、少しでもお役に立ちたいと思っています。

交流館 鈴木館長

今年4月に異動してきました。地域の方と障がいのある方が、こうして交流を続けていることは素晴らしいですね。交流館としても、それぞれの橋渡し役として、地域のボランティアサークルの紹介などのお手伝いを続けていこうと思います。



むもん
歳時記

紫陽花

青い空 生活支援員 大塚夏未

先日、鎌倉の長谷寺に紫陽花を見に行きました。まだ時期が早かったのか、まだこれから咲こうとしている花がほとんどでした。長谷寺に入った直後は、満開に咲いているところがきれいだと思って来たのに…と残念に思いました。

ふと、頭の中に「世界に一つだけの花」という曲が浮かびました。

“人それぞれ好みはあるけど、どれもみんなきれいだね”

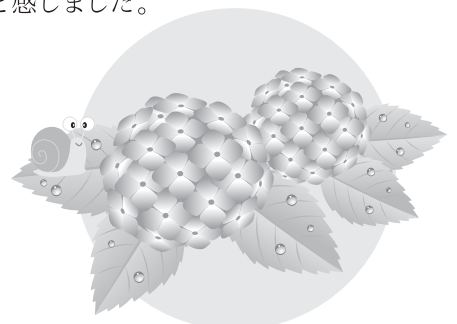
“一人一人違う種を持つ、その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい”

目の前にあるまだ咲いていない花が、これから咲かせようと頑張っているんだ、と思うと見方が変わり、どれもきれいだと感じました。

1つ1つの紫陽花の色や形、成長スピードがどれも違うところがまた面白いと感じました。

その日長々と紫陽花を見ていましたが、飽きませんでした。

私たち無門福祉会の職員・利用者さんもそれぞれ抱えている悩みやその方が持っている魅力が違い、素敵な個性を持っているのだと感じました。その素敵な個性を引き出せる支援員になろうと強く思いました。これからもこの個性豊かなメンバーと共に、私たちの夢に向かって頑張っていきます！



スポットライト

利用者さん チャレンジ精神

ショートブレッドというお菓子を通して、Fさんは毎日いきいきとお仕事をしています。

Fさんは現在、ショートブレッドの見た目に大きく関わってくる仕上げ作業に入っています。1枚1枚を丁寧に行うのですが、誰よりも手際よく美しいショートブレッドに仕上げてください。どれもきれいですが、自分で見て「これは特に上手にできた!」という時は自信満々に笑顔で見せてくれます。以前は支援スタッフが直していたこともあったのですが、今のFさんにはお任せでお願いしています。

クラブハウスのシェフから味の合格をもらい、今では販売できる商品になりました。お客様に「美味しいね」と言っていただくと、笑顔で「ありがとうございました」と、少し照れながらですが挨拶をします。…本当は苦手な作業もありました。でも、「今は練習だね」と自分から言うほど意欲的に練習を重ねてきた結果、今ではほとんどの工程をお任せできるように。

菓子工房では毎日ショートブレッドを作っていますが、一つ一つに「美味しくなあれ」と気持ちを込めて作っています。Fさんが作るショートブレッドを皆さんもぜひ、食べてみてください。

(あおいそらカフェ 岡本若奈)



職員 今を大切に

強さと優しさを合わせ持つ、まさに日本の母親像を描いたような藤井さんが「家族の話でもしようかね。」と穏やかに話し始める。

「長男は、幼稚園の時からサッカーを始めて、今でも続けているよ。今年はワールドカップもあり、早朝からテレビの前で一緒に応援しました。日本は残念な結果でしたけどね。」藤井さん自身も体を動かすことは好きなようで、バレーや水泳に打ち込んだ学生時代を振り返りながら、将来は福祉の世界を志す長男の成長に目を細めます。

「長女は小さい時からピアノを習っていて、吹奏楽で音楽を続けてね。今はジャズサークルに所属していて、将来は保育士を目指しているみたい。」と、二人の子どもたちが好きなことを長く続けていることを嬉しそうに報告してくれました。

そんな多忙な家族が、情報を共有するために利用しているのが「LINE」である。家族でグループを作ること、家事の分担などが出来て、大変便利な様子。ただ、「きちんと顔を合わせて、コミュニケーションはとっているからね。決して冷たい家族ではないからね。」と苦笑していました。

中学の卒業時、校長先生に書いてもらった「今を大切に」の色紙が座右の銘と話す藤井さん。仕事と家庭を両立し、働く女性の代表でもある姿は、とても大きく輝いて見えた。



ふじい ふみこ
藤井 史子 グループホーム 生活支援員

1968年生まれ。岡崎市出身。1992年入職後、結婚・出産で一時離れるが、2009年に復職。入所施設での勤務を経て、昨年からはグループホーム勤務となる。夫と長女(大学2年)、長男(高校2年)の4人家族。



平成25年度決算報告

貸借対照表

(単位:円)

資産の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	251,903,929	279,010,205	△ 27,106,276
固定資産	1,008,909,620	902,573,021	106,336,599
基本財産	535,034,862	561,898,061	△ 26,863,199
その他の固定資産	473,874,758	340,674,960	133,199,798
資産の部合計	1,260,813,549	1,181,583,226	79,230,323

負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	46,549,795	27,817,714	18,732,081
固定負債	61,318,140	64,302,985	△ 2,984,845
負債の部合計	107,867,935	92,120,699	15,747,236
純資産の部			
基本金	85,257,811	85,257,811	0
国庫補助金等特別積立金	168,458,868	179,477,321	△ 11,018,453
その他の積立金	427,280,000	291,080,000	136,200,000
次期繰越活動収支差額 (うち当期活動収支差額)	471,948,935 74,501,540	533,647,395 93,563,169	△ 61,698,460 △ 19,061,629
純資産の部合計	1,152,945,614	1,089,462,527	63,483,087
負債及び純資産の部合計	1,260,813,549	1,181,583,226	79,230,323

資金収支計算書

(単位:円)

勘定科目	予 算	決 算	差 異
授産事業			
授産事業収入計	50,000,000	46,044,634	△ 3,955,366
授産事業支出計	50,000,000	41,836,998	8,163,002
授産事業活動資金収支差額	0	4,207,636	4,207,636
福祉事業			
福祉事業収入計	660,621,850	721,030,422	60,408,572
福祉事業支出計	620,379,713	629,329,830	△ 8,950,117
福祉事業活動資金収支差額	40,242,137	91,700,592	51,458,455
施設整備			
施設整備等収入計	0	0	0
施設整備等支出計	1,290,000	1,859,785	△ 569,785
施設整備等資金収支差額	△ 1,290,000	△ 1,859,785	△ 569,785
財務活動			
財務収入計	10,223,000	36,783,200	26,560,200
財務支出計	154,070,000	176,670,000	△ 22,600,000
財務活動資金収支差額	△ 143,847,000	△ 139,886,800	3,960,200
予備費	7,700,000	0	7,700,000
当期資金収支差額合計	△ 112,594,863	△ 45,838,357	66,756,506
前期末支払資金残高	278,439,584	251,192,491	△ 27,247,093
当期末支払資金残高	165,844,721	205,354,134	39,509,413

事業活動収支計算書

(単位:円)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
授産事業			
授産事業活動収入計	46,044,634	47,477,965	△ 1,433,331
授産事業活動支出計	41,836,998	39,518,196	2,318,802
授産事業活動収支差額	4,207,636	7,959,769	△ 3,752,133
福祉事業			
福祉事業活動収入計	534,706,499	529,346,860	5,359,639
福祉事業活動支出計	463,992,578	423,400,260	40,592,318
福祉事業活動収支差額	70,713,921	105,946,600	△ 35,232,679
事業活動外			
事業活動外収入計	227,925,576	335,124,250	△ 107,198,674
事業活動外支出計	228,327,446	335,567,450	△ 107,240,004
事業活動外収支差額	△ 401,870	△ 443,200	41,330
経常収支差額	74,519,687	113,463,169	△ 38,943,482
特別収入	0	0	0
特別支出	18,147	19,900,000	△ 19,881,853
特別収支差額	△ 18,147	△ 19,900,000	19,881,853
当期活動収支差額	74,501,540	93,563,169	△ 19,061,629
繰越収支			
前期繰越活動収支差額	533,647,395	622,784,226	△ 89,136,831
当期末繰越活動収支差額	608,148,935	716,347,395	△ 108,198,460
その他の積立金取崩額	36,400,000	68,000,000	△ 31,600,000
その他の積立金積立額	172,600,000	250,700,000	△ 78,100,000
次期繰越活動収支差額	471,948,935	533,647,395	△ 61,698,460

編集後記

毎度のことであるが、原稿集めに苦労し、編集作業に追われ、発行が遅れてしまう。今回も思うようにいかず、焦るばかりで、無情にも時だけが流れていく。

ふと、原点に戻ってみる。発行の目的は何か？そこがブレるために作業が進まないのではないか？これは、私たちが日々行っている支援にも通じる。作業の提供が目的なのではない。彼らにとって生きにくい部分を、どのようにサポートしていくかが私たちの仕事である。

広報発行の目的も明確になり、次回からは苦労することもないだろう。空を見上げると、梅雨も明け、澄み切った青空が広がっていた。梅雨前に作業を始めたのだけれど(笑)。

大谷 等

広報委員：磯部 竜太 大谷 等 塚原 礼実

最新情報は
こちらから!

むもんブログ

<http://blog.mumon-fukushi.net/>

ケータイから見えます!

